

#### 1、期間

平成23年7月10日～7月14日

#### 2、支援場所

- ・石巻市雄勝・河北地区
- ・気仙沼市内の幼稚園2園

#### 3、支援内容

- ・石巻雄勝・河北地区の乳幼児健診（こころの相談業務）
- ・気仙沼市山間部にあるM幼稚園の父母会でPTSD予防的ケア
- ・気仙沼市T幼稚園訪問

#### 4、詳細

石巻市雄勝・河北地区は震災以来中断していた乳幼児健診を先月から再開している。ジャパンハートにも健診協力依頼があり先月から協力している。また兵庫県、鳥取県からきた応援の保健師さんや東北大学からの協力体制もあり、とても丁寧な対応で実施されている。

たとえ1歳半であっても震災の影響なのだろうと感じるところがいくつかあった。まずはミルクの問題がある。スエーデンをはじめ各国から送られてきた液体ミルクこれが乳児のいる家庭に大量に支給され、震災後はとても助かったそうである。震災から4カ月が経過したいまでも大量に余った液体ミルクは「もったいないから」という理由でいまだに哺乳瓶で子どもが摂取しており、虫菌のリスクが高いと歯科医の先生は困っておられた。また哺乳瓶を卒業した子どもも自らまた哺乳瓶でほしがるようになり、震災によって不安や恐怖を両親から間接的に感じているのかもしれないと思った。

その他にも、震災以来体重の増えが悪い、寝付きが悪くなった、かんしゃくが多いなどの訴えを聞くことがあった。

地域の保健師さんは他府県の協力体制のもと乳幼児がいる家庭の全戸訪問を実施しており、毎日暑い中で根気のいる作業であるがきっちりとニーズに答えておられた。今後も必要とされる限り、この地区の乳幼児健診に協力していこうと思う。

気仙沼地区には私立幼稚園が6園あり、そのうちの3園目を訪問した。  
今回は保護者会で少し時間をいただき、PTSDの予防的な関わりと、事前に行っていたアンケートの回収結果を個別に報告することを目的とした。  
この幼稚園は山間部にあり、津波の直接被害や目撃例もないので他の園に比べて安定しているだろうと思っていた。しかし実際に子どもの様子を示すストレステストを保護者に記入していただいたところ、津波被害で自宅が倒壊して引っ越してきた子ども以外にも気になる症状を持つ子どもが数名いた。その子どもたちは震災以前からの気質であったり、家庭環境が複雑であったりという要因がありそれらが震災によって浮き彫りになったような印象であった。

おおきなストレスを受けた時に人間の脳では何が起きているのか？

おおきなストレスを受けた時に子どもに出やすい症状？

症状への対処法？

お母さんとお父さんができる子どもへのリラクゼーション法？

などのお話と実習を交えて1時間実施した。

その後、直接被害のあった御家庭のお母さんから個別相談を受けて終了とした。

このお母さんは震災以後、引っ越しや仕事復帰、子どもの世話など目まぐるしく日々が過ぎ、気がつけば7月だったとのこと。個別相談が始まるとすぐに涙を流しながら自らの体験を語り、子どもの対応で困っていることを相談された。

日々の中では抑圧して症状を出さず自覚もされていないが、いざ相談できるとなると雪崩のように自らの体験を語り、いかに日々恐怖を感じているかが伝わってきた。

しかしこのように語れる方はまだ軽傷であり、本当に辛い体験は言葉にできないのだろうとも感じた。

ゆっくりとではあるが、地元の方々への認識も広まり、相談業務が増えている。

今後は臨床心理士が仙台事務所に常駐して各園や避難所を巡回し、ニーズに対応していく予定にしている。